

鷄肉情勢

項目

1. 国内

供給

2. 輸入

需要

2. 量販・卸

在庫

2. 見通し

相場

2. 見通し

内容

(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和6年6月末実施)によると、5月の推計実績は処理羽数64,952千羽(前年比102.1%)、処理重量197.6千ﾄﾝ(同102.7%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.4%の上方修正となり、処理重量は3.0%上方修正された。5月は気温の上昇に伴い大腸菌症や脚弱といったトラブルが減少したことに加え、増体が向上し順調に育成が進んだこともあり、処理羽数・処理重量共に前年を大幅に上回った。

(2) 6月の計画処理羽数・処理重量は前年を下回る予想となっているものの、4月・5月の入雛羽数が前年を上回る実績となっていることから、実際の処理羽数・処理重量は前年を上回るのではないだろうか。実際は各産地の増体が良く、産肉量は多かったとの声が聞かれる。7月についても6月同様、処理羽数・処理重量は前年を下回る予想となっているものの、土・日・祝日が前年から2日減少したことによる処理工場稼働日数の増加が見込まれるため、実際の処理羽数・処理重量は前年を上回るのではないだろうか(今年9日、昨年11日)。工場の人員不足については外国人技能実習生が来日するようになったものの都市部への就業に集中していることや、従業員の高齢化などにより、人員確保が難しくなっているとの声も聞かれる。副産品(小肉・剣状軟骨など)や機械で加工することが難しい手羽中半割といった加工品の調整を行っている産地もあるようだ。この傾向は暫く続く見通しだ。

(1) 財務省6月27日公表の貿易統計によると、令和6年5月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+1.2千ﾄﾝの53.2千ﾄﾝ、国別ではブラジルが前月+5.2千ﾄﾝの40.2千ﾄﾝ、タイが▲4.6千ﾄﾝの11.9千ﾄﾝとなった。前年同月の実績に対しては+1.5千ﾄﾝとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、輸入量は6月が53.6千ﾄﾝ(前年比92.8%)、7月は49.1千ﾄﾝ(同105.1%)となっており、コスト高・為替(円安)や先物価格の上昇や国内の輸入在庫の増加等により、輸入量は徐々に減少していくと予測する。直近の現物価格は上昇傾向であり、先物についても更なるコスト高が予想されるため、在庫を確保する動きが活発化しているようだ。また、ブラジルが鳥インフルエンザのシーズンに入るため、今後の動向に注視したい。

(2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から▲3.8千ﾄﾝの40.8千ﾄﾝで国別では中国が▲2.8千ﾄﾝ、タイが▲1.0千ﾄﾝとなった。前年同月実績35.4千ﾄﾝとの差は+5.4千ﾄﾝとなり、前月比は下回ったものの、前年比は上回る結果となった。国内の働き手不足やコロナ禍が明けた影響による外食筋の回復、共働き世帯の増加に伴う中食・総菜向け等の引き合いも継続している。鶏肉調整品の需要が高いことに加え、中国・タイともに生産状況が安定していることも手強い、4月・5月は40.0千ﾄﾝを超えたと考える。しかし、コスト高・為替(円安)もあるため輸入量が今後急増することは考えにくい。

(3) 財務省が6月27日に公表した貿易統計によると、5月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より14.3%上昇し、鶏肉調整品は中国が前年同月より10.4%上昇、タイが7.0%上昇した。解体品の国別価格は、ブラジル産の輸入価格が302円/kg(前月比▲2円)、タイ産が437円/kg(同+25円)となっている(国別平均価格)。タイ産・ブラジル産ともに現物での唱え値が上がってきており、国内在庫の確保に走る業者もあるようだ。

(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和6年5月の食品売上高は全店ベースで前年比102.5%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同102.3%、既存店ベースは同101.4%となった。また、畜産部門の売上高は約1,214億円で全店ベース同99.5%、既存店ベース同98.6%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、「前月より小幅に改善も不調が続く。値ごろ感のある鶏肉の需要シフトが強まり、単価が下落。輸入肉の価格が高騰していることで、全般的に数量が伸び悩んだ。牛肉は引き続き低迷が続き、GW 時期の BBQ 用は伸び悩んだが、焼肉やステーキなどは動きがよかったという声も。豚肉は小間切れやひき肉など、値ごろな商材に需要が集中、鶏肉は販売が伸長している。加工肉は値上げの影響で不振とする店舗が多い。」とコメントがあった。消費者の節約志向は高まっていることが伺える。

(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和6年5月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比100.3%の4.6千ﾄﾝとなった。うち国内品は同108.5%の3.7千ﾄﾝと前年を上回り、輸入品については同75.6%の0.9千ﾄﾝと前年を下回った。

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の5月末時点推定期末在庫では国産36.3千ﾄﾝ(前年比123.6%・前月差+0.8千ﾄﾝ)、輸入品131.0千ﾄﾝ(同102.8%・同+3.9千ﾄﾝ)と合計で167.3千ﾄﾝ(同106.7%・同+4.7千ﾄﾝ)となった。

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、5月の出回りは国産146.0千ﾄﾝ(前年比103.8%・前月差▲1.4千ﾄﾝ)、輸入品49.3千ﾄﾝ(同112.7%・同▲4.8千ﾄﾝ)と合計で195.3千ﾄﾝ(同105.9%・同▲6.2千ﾄﾝ)となった。前月からは出回りは国産・輸入共に減少しているものの、前年比では大きく数量を増やしていることから鶏肉に対する需要・供給共に高い水準にあることが伺える。5月以降の在庫については輸入品在庫が増加しているものの、前述の7月の輸入量予測が50.0千ﾄﾝを下回り、円安などのコスト高を見越しての集荷がある程度進んだこともあり、業務筋での消化が進み、国産品の出回り量も増加していることから、在庫量は前年を上回る状況が直近では続くものの、徐々に国産在庫・輸入品在庫ともに減少すると予測する。

(1) 令和6年6月の月平均相場は、モモ肉619円/kg(前月差▲12円)・ムネ肉354円/kg(同±0円)正肉合計で973円/2kgと前月を12円下回り、前年同月を177円下回った。モモ肉相場は月初625円、月末は611円となり(昨年は月初769円、月末735円)、前年の相場を下回った。生産においては、各産地の処理羽数増や増体向上等から、全国的に順調に推移した。国内在庫量が増加傾向だが、モモ肉については量販店の特売による消化が進み、ムネ肉については輸入品全般の価格高騰等から加工筋向けの引き合いが強まっている。円安などによる輸入価格の高騰などから輸入鶏肉についても安い玉を探すことが難しくなっているとの声も聞かれる。ササミ・手羽もと・手羽さきなどは量販店・生協などからの引き合いは強まっており、内臓関係については、外食筋の動きが活発になっている影響もあり引き合いは強まっている。鶏肉自体の需要は高まっているものの、供給量自体が増加している印象だ。

(1) 6月の生産量は前述にもあるように処理重量ベースで前年を下回る計画であるものの、全国的には生産が順調という声が多く聞かれるため実際は前年を上回っていたと考える。7月についても暦の関係で処理工場の稼働日数は多いことから処理羽数・重量ともに前年を上回り、この傾向は続くだろう。コストプッシュインフレ・為替(円安)の影響から食料品の価格全般が上がっていることも手強い、牛肉・豚肉から安価な鶏肉への需要シフトが進んでいる。モモ肉においては量販店の特売用として販売している店舗が目立ち、ムネ肉は消費者への価格訴求品としての引き合いが強い。輸入鶏肉については前年から比較すると輸入量は増加傾向ではあるものの、為替の影響で安価で国内に流通することは考えにくい。7月のモモ肉相場はやや下げの月平均605円、ムネ肉相場は持ち合いの月平均355円と予測する。

(2) 輸入品全般が原料高・輸送費の値上げ・為替(円安)の影響などによる価格高騰が続いており、国産品についても飼料・輸送費・人件費等の高騰に伴い、価格転嫁を避けられなかった結果、比較的安価な鶏肉への需要シフトが顕著に数値として現れたと考える。消費者の節約志向の高まりにより、今後も安価な商品を中心に売れていくと考えられる。今後は販売店・卸・処理工場含めコスト圧縮・合理化だけではなく、集客増を狙った新たな取り組みや販路の開拓、付加価値商品の開発、需要が見込める部位の商品化率の向上およびレンジングされていた部位の商品化などに力を入れる業者は今後増えていくのではないだろうか。
国内の生産量は増加傾向にあるが、輸入品含めた牛肉・豚肉の価格高騰により鶏肉への需要シフトが続き、増加傾向にある訪日外国人によるインバウンド需要も期待出来るため、鶏肉需要自体が落ち込むことは考えにくい。夏場の食肉需要自体の減衰も手強い、モモ肉相場が徐々に下がる可能性はあるものの、鶏肉相場は順調に推移していくと思われる。

実績

生産状況

鶏肉の消費動向

在庫状況(推定)

出回量(推定)

相場(月別)

単位:千羽、千トン、%

	R5年累計(推計)		R6年5月推計実績		R6年6月計画		R6年7月計画		R6年8月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	784,087	101.2%	65,799	102.1%	60,736	98.0%	61,641	98.9%	65,285	95.7%
処理羽数	743,734	100.9%	64,952	102.1%	60,882	99.2%	58,178	99.2%	57,561	95.5%
処理重量	2,240.5	101.0%	197.6	102.7%	181.8	97.2%	174.0	99.2%	171.0	97.5%

※参考資料: (株)全国食鳥新聞社発行「PMN」

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R6年1月	54.7	44.4	123.3	35.7	34.3	104.1	90.4	78.7	114.9	60.5	39.5
R6年2月	55.4	47.1	117.6	34.3	32.1	107.0	89.7	79.2	113.3	61.7	38.3
R6年3月	52.7	47.5	110.8	38.3	40.6	94.5	91.0	88.1	103.3	57.9	42.1
R6年4月	52.0	47.4	109.7	44.6	39.9	111.9	96.7	87.3	110.7	53.8	46.2
R6年5月	53.2	51.7	102.9	40.8	35.4	115.0	94.0	87.2	107.9	56.6	43.4

※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8
R6年1月	1,501	1,491	100.7	1,608	1,559	103.1
R6年2月	1,584	1,402	113.0	1,605	1,475	108.8
R6年3月	1,614	1,497	107.8	1,650	1,511	109.2
R6年4月	1,509	1,572	96.0	1,539	1,566	98.3
R6年5月	1,569	1,485	105.7	1,585	1,530	103.6

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年12月	33.6	24.6	136.1	115.7	124.2	93.1	149.2	148.8	100.3
R6年1月	31.2	24.4	127.5	125.9	125.6	100.2	157.0	150.0	104.7
R6年2月	34.9	25.0	139.6	124.1	128.1	96.9	159.0	153.1	103.9
R6年3月	36.9	27.0	136.3	129.1	126.9	101.8	166.0	153.9	107.8
R6年4月	35.5	27.5	128.9	127.1	119.5	106.3	162.6	147.1	110.5
R6年5月	36.3	29.3	123.6	131.0	127.5	102.8	167.3	156.8	106.7

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年累計	1,683.1	1,685.4	99.9	563.3	604.1	93.3	2,246.5	2,289.5	98.1
R5年累計	1,689.0	1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6	2,295.4	2,246.5	102.2
R6年1月	142.1	137.2	103.5	44.5	43.0	103.5	186.5	180.2	103.5
R6年2月	140.3	133.0	105.5	57.1	44.6	128.1	197.5	177.6	111.2
R6年3月	141.5	140.8	100.4	47.7	48.8	97.7	189.2	189.6	99.7
R6年4月	147.4	138.8	106.2	54.1	54.8	98.7	201.5	193.6	104.1
R6年5月	146.0	140.7	103.8	49.3	43.7	112.7	195.3	184.4	105.9

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R6年3月	661	799	82.7	364	411	88.6	1,025	1,210	84.7
R6年4月	639	789	81.0	356	410	86.8	995	1,199	83.0
R6年5月	631	774	81.5	354	408	86.8	985	1,182	83.3
R6年6月	619	745	83.1	354	405	87.4	973	1,150	84.6
R6年7月	(605)	709	85.3	(355)	398	89.2	(960)	1,107	86.7
R6年8月	(600)	674	89.0	(355)	383	92.7	(955)	1,057	90.4

※()は見通し